

論 文 要 旨

Serum soluble interleukin-2 receptor level is more sensitive than
angiotensin-converting enzyme or lysozyme for diagnosis of sarcoidosis and may
be a marker of multiple organ involvement

(血清可溶性インターロイキン2受容体値は、アンジオテンシン変換酵素や
リゾチームよりもサルコイドーシスの診断に鋭敏であり、多臓器病変を示唆
するマーカーとなる可能性がある)

関西医科大学皮膚科学講座
(指導：岡本 祐之 教授)
Nguyen Thi Hong Chuyen

【はじめに】

サルコイドーシスは発症機序が不明な全身性肉芽腫性疾患である。診断確定のための決定的な検査方法はなく、組織検査での肉芽腫性病変の確認とともに、臨床症状や検査、画像所見を含めて判断するため、サルコイドーシスの診断はときに困難である。また、活動の評価および治療反応の予測に適しているバイオマーカーに関しても、十分なデータは得られていない。2015年に国内の診断基準が改正され、改定項目の1つとして、ツベルクリン反応の陰性が除かれ、血清可溶性インターロイキン2受容体 (sIL-2R) の高値が加わった。

【研究目的】

この研究の目的は、以前からサルコイドーシスの診療に用いられてきたアンジオテンシン変換酵素 (ACE) およびリゾチームと比較して、診断、重症度評価およびフォローアップにおける血清 sIL-2R の臨床的有用性を評価することである。

【方法】

関西医科大学附属病院皮膚科を2008年12月から2016年10月に受診したサルコイドーシスの患者の中から、血清 sIL-2R 値の測定を行った患者72人 (男性11人、女性61人) を後ろ向きに評価した。

【結果】

患者72人の血清 sIL-2R 値の平均値は497 U/mL (354.6-847.5 U/mL) であり、正常範囲 (124-466 U/mL) より高かった。血清 sIL-2R の上昇が見られた患者は52.8%で、ACE高値の29%、リゾチーム高値の26.4%よりも高かった。また sIL-2R レベルは、血清 ACE およびリゾチーム、白血球数、末梢好酸球数と有意に相関していた。また血清 sIL-2R レベルは、罹患臓器数と有意に相関し、3つ以下の罹患臓器を有する患者に対して3つ以上の臓器に病変を持つ患者では優意に sIL-2R が上昇していた。また sIL-2R の値が高値を示す患者と示さない患者とを比較した場合、sIL-2R 値が高値を示す患者では皮膚症状が多発し、胸部 X 線撮影のステージング、画像診断上の所見 (ラムダサイン、パンダサインおよび/または BHL) の存在や CRP、ACE、リゾチームの高値、より高い頻度での肺外疾患の出現がみられた。治療による推移を検討すると、経過中に複数回の測定が行われた22人中20人の患者では sIL-2R レベルの変化 (90.1%) が臨床経過と相関するかたちで確認された。

【考察】

サルコイドーシスの診断における ACE の感受性は約 40～60%と報告され、血清リゾチームの感受性は 69%と報告されているが、我々の検討ではいずれも報告値よりも低かった。これに対して、血清 sIL-2R レベルの上昇はより多くの患者で上昇が確認され、従来用いられてきた ACE やリゾチームと比較して、血清 sIL-2R のレベルはサルコイドーシスの診断により有効なパラメーターとなっていると考えた。また、sIL-2R は肺病変の進行と相関しており、また複数の臓器症状出現の予測となることから、サルコイドーシスの診断を支援するより感度の高いマーカーであると考えた。